

平成 29 年度第 1 回市原市市民活動・協働推進委員会議事録

- 1 日時 平成 29 年 5 月 20 日（土）午前 9 時から午前 11 時 50 分まで
- 2 場所 市原市役所議会棟第 3・4 委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員
関谷会長、鈴木副会長、小澤委員、栗原委員、谷口委員、露崎委員
 - (2) 事務局
 - ア 市民活動支援課 藤井課長、高橋主幹
 - イ NPO・ボランティア支援室 中原室長、谷川副主査、朝枝主任
- 4 議事
 - (1) 平成 29 年度市原市市民公益活動支援補助事業ステップアップ事業（2 次募集分）に係るプレゼンテーション審査の事前協議（非公開）
 - (2) 平成 29 年度市原市市民公益活動支援補助事業ステップアップ事業（2 次募集分）に係るプレゼンテーション審査
- 5 会議経過
以下のとおり

（司会）

ただいまより、平成 29 年度第 1 回市原市市民活動・協働推進委員会を開催します。

開会にあたりまして、今回、平成 29 年度 1 回目ということで、事務局である市の職員も大幅に変わりましたので、はじめに職員の紹介をさせていただきます。

－事務局職員紹介－

それでは、はじめに、関谷会長より御挨拶をお願いいたします。

（会長）

今年度第 1 回の委員会ということですが、事務局の方もかなり大幅に入れ替わったということで、改めて新鮮な思いで、市原市の市民活動を盛り上げていければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

我々としましては、ここ何年も審査に携わっていて、いろいろな団体の活動を見守ってきているところですが、本日は、平成 29 年度 2 次募集分ということで、5 団体から応募いただいております。

これまでと同様に、いろいろな角度から御議論いただいて、またその活動が前進していくような、そういった審査ができればと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

それではさっそく議事をお願いしたいと思います。市原市附属機関設置条例第 5 条第 1 項の規定によりまして、会長が会議の議長となることになっておりますので、以降の進行を会長をお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(会長)

それでは、第 1 回の市民活動・協働推進委員会を始めたいと思います。

まず、成立要件の確認でよろしいですか。

(司会)

はい。よろしくお願いいたします。

(事務局)

会議の成立要件につきましては、市原市附属機関設置条例第 5 条第 2 項の規定により、委員の皆様の過半数の出席が必要になります。

本日は総委員数 6 名全員の出席をいただいておりますので、本会議が成立していることを御報告いたします。

(会長)

ありがとうございました。

ただいま事務局の方から、出席委員数の御報告をいただいて、その結果、設置条例第 5 条第 2 項の規定により、本会議が成立しているということを確認させていただきました。

なお、議事録の署名人については、これまでどおり、私と副会長の方で議事録署名人を務めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

－異議なし－

(会長)

それでは、議事等の内容を確認した上で、そのような形で進めさせていただきたいと思
います。

本日は、傍聴人はいませんので、このまま議事の方に入りたいと思います。

「議事（１）に係る会議経過については、市原市情報公開条例施行規則第 14 条第 1 項第 3
号により、会議を公開することにより、率直な意見交換及び意思決定の中立性が不当に損
なわれるおそれがあるため、一部非公開としているので、表示していません。」

(司会)

ありがとうございました。

それでは、引き続き、補助事業のプレゼンテーション審査がございますが、こちらにつ
いては、午前 10 時から、お隣の第 4 委員会室の方で行いますので、よろしくお願
いします。

－休憩、各委員 会場移動－

(司会)

ただいまより、平成 29 年度第 1 回市原市市民活動・協働推進委員会の議事(2)として、平
成 29 年度市原市市民公益活動支援補助事業ステップアップ事業(2 次募集分)のプレゼンテ
ーション審査を開催いたします。

発表は、提案書の受付順とし、1 団体あたりの発表に関する持ち時間は、発表 10 分、質
疑応答 10 分の計 20 分となります。発表の途中でありましても、10 分が経過しましたら、
終了とさせていただきますので、御了承ください。

なお、本委員会は、市原市情報公開条例第 33 条の規定により、会議を公開するよう努め
なければならないと定められておりますので、公開にて開催させていただきます。

また、内部資料としまして、会議の録音並びに会議中の写真を何枚か撮影したいと存じ
ます。予め御了承をお願いいたします。

それでは、これからの議事の進行は、会長をお願いいたします。

(会長)

本日はお忙しい中、このプレゼンテーションに御参加いただき、ありがとうございます。

私どもは市原市の市民活動・協働推進委員会ということで、この審査について担当して
いるものです。

御提出いただいている書類については我々の方で事前に拝読し、検討しています。

この後のプレゼンテーションをしていただいた後、最終的に会議の場でいろいろな角度
から議論したうえで、この委員会として採択・不採択を決定させていただきます。

本日は最終的な協議に向け、書類とは別に皆さんにプレゼンテーションをしていただいて、こういった事業を考えている、というアピールをしていただければと思います。

書類だけでは分からない部分もありますので、10分という短い時間ですが、ぜひ思いの丈をおっしゃっていただければと思います。

発表後、また10分間、私や審査員の方から質問をさせていただきます。質問に対しても端的にお答えいただき、皆さんが考えていることをいろんな角度からあぶり出したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、1つ目の団体、「親子サポート cocorosalon Aun（こころさろん あん）」様、よろしくお願いいたします。

－ 「親子サポート cocorosalon Aun」のプレゼンテーション－

(会長)

ありがとうございました。

それでは、質疑に移りたいと思います。

(委員)

とてもよい取組であると思います。私自身は、発達障害という言葉聞いたことはあるのですが、映像で見るのは初めてでした。

「大空小学校」についての上映会をするのは、市原市では、そして近隣の市を含めても初めての取組であると思います。いろんな問題を抱えているとは思いますが、本当に大変なことだと思います。

質問としては、まず、発達障害児の親に対してどのような対策・接し方をしているかということ、そして、先ほどの就労問題についてもう少し詳しいことを教えていただきたい。

「まめの子通信」を発行しているということでしたので、本日頂戴できればよかったですかなと思います。これからお子様たちが成長していく中で、ある程度長期に渡る計画も立てていかれたらいいのかなということですね。

それから、チラシの印刷が3万部と書いてありますが、それは、木更津市や袖ヶ浦市等、市外の小学校へ配布するおつもりなのか。

また、上映の際にチラシ300枚ということですが、それはアンケートを添付してのことでしょうか。アンケートの後にメールをやり取りするということは、なかなか出来ないことであると思います。

その辺りについても、お聞きしたいと思います。

(親子サポート cocorosalon Aun)

全ての質問が頭に入っているか不安ですが、足りなかったらもう一度教えてください。

まず、当日配布のチラシの印刷とアンケートについては、別にとってあります。

チラシについて 300 枚としているのは、もし来場者数が 700 人であったとしても 700 家族ということはないだろうという考えで設定しています。

アンケートについては、大人の方は全員記入していただきたいので、600 枚としています。

私は、これまで、何か秀でるもの、集中できるものが一つでもあればいいと考え、子育てをしてきましたが、どこか一つ秀でていても、欠けている部分はやはり欠けていると感じています。総合的な支援としては、やはりコミュニケーションもそうですし、学習もそうですし、保護者の支援としては、まず、お母さんたちの話を聞くことが大切だと思っています。

なぜなら、お母さんたちもママ友などに少し相談したりするのですが、「うちの子も忘れ物はするよ」、「普通だよ」などと言われてしまい、思いの丈が話せないということがあります。

「うちもこんな感じだよ」、「一緒だね」と話をすることで、だいぶ楽になったと私たちのイベントに参加された方がおっしゃっているので、そのような支援から始めて、もし保護者の方がそれでもきついか苦しいとか感じるのであれば、もちろんカウンセリングを試してみたり、その保護者を楽にするためにそのお子さんの学習支援をしたりして、スキルを磨くことが必要になってくるとは思っています。

(委員)

どうもありがとうございます。

(委員)

とても楽しい映画ですので、ぜひ頑張って上映していただきたいと思います。

質問が 2 つあります。

まず一つは、you ホールの会場費のことなのですが、音楽室・調理室の用途について。

もう一つは、対企業について。企業協賛金 21 万円とあり、企業への研修とあります。こちらの見込みと研修の内容などについて教えてください。

(親子サポート cocorosalon Aun)

まず、会場費の音楽室・調理室についてですが、当日は朝から夜まで開催するため、お昼時間帯を挟むということで、出展を依頼する施設の方々の食事場所の確保という意味と、我々のスタッフたちがカウンセラーの資格を持っている者が多いので、映画を見た後のシェア会という形で、話を聞く場を設けるという意味で、音楽室と調理室の利用を考えています。

企業の協賛に関しましては、現在、協賛金の資料を、プレゼンテーション資料と同じような形で作っている状態です。

特に見込みがあるかと言われるとそれほどないのですが、1箇所ずつ回って何とかこの金額は確保したいと思っています。

協賛していただいた企業への研修の内容に関しましては、コミュニケーション研修ということで、おおもとが人格適用論というものになるのですが、それぞれのアンケートを記載していただくと、タイプが分かります。

タイプによって、スタートの声かけの仕方が変わり、声のかけ方によって相手の心が開くのか閉じるのかというところとかが分かるので、そういった、人とのコミュニケーションの研修を考えています。

(委員)

ありがとうございました。

(会長)

どうも、ありがとうございました。

続きまして、「桜さんさん会」様、準備をお願いします。

－「桜さんさん会」のプレゼンテーション－

(事務局)

申し訳ございません、発表の途中ですが時間になりましたので、質疑に移らせていただきます。

(会長)

話し足りない部分は、この後の質疑の中でお話いただければと思います。

それでは、委員のほうから質問をさせていただきます。

(委員)

一つは、無料のオブジェとありますが、一般的に考えますと、みんなを惹きつける魅力的なオブジェが無料で集まるのかなということが、最初に気になったところです。

その辺りは、自分たちの目的に合ったオブジェを集めるのにどのような方法を考えているのでしょうか。

もう一点は、そうしたオブジェを集めるときに、どのような地域から集めようとしてい

るのか。県全体なのか、全国なのか。

またもう一点は、オブジェ選定委員とありますが、これは公開されてよいものなのかどうか。もし公開されてよろしければ、どういう方々が委員になっているのか、教えていただければと思います。

(桜さんさん会)

まず、一点目のオブジェを無料で集めるというところですが、私どもも最初に市民会議で文化と芸術の里づくりをしようという夢を抱いていました。

いざ、これを実施しようとした時に、当然、オブジェを買わなければいけないわけですが、とても我々のようなボランティア団体にはできません。

その時は、ボランティア団体が中心になってやるということでスタートしたものですから、いろいろ考えた結果、とにかく私どもが夢をもって、30年、40年という世代をつないでオブジェを少しずつ置いていこうということになりました。

オブジェの数で言うと、桜並木の植樹の間に設置しようとする、120～130体は置ける。ということは、年間5つ設置したとしても20年以上かかる。30年かもしれない。しかも、設置後はメンテナンスをしなければいけません。

したがって、私どもの事業は最初のスタートしたときから世代をつないでやりましょうということで進めています。

実際に事業を展開しまして、オブジェの募集をかけたところ、結構いらっしゃったんですね。まず、市原市の工芸会に相談しまして、市原市の芸術家を紹介していただいて、そのうち80%は了解していただきました。

また、先ほど申し上げましたオブジェの選定委員会についてですが、公共用地に半永久的に置くわけですから、我々素人が勝手に置くわけにはいきませんので、行政から御指導をいただきまして、きちんと公の委員の選定をして、全員で5,6名いますが、湖畔美術館長など有名な方ばかりでございます。

ですから、公募の方はもちろん大丈夫です。そういったところで私が説明しますと、皆さん全部了解してくれます。そして、委員の方々が審議をしてくださった上で、オブジェを置いています。

審査に関しましては、この補助事業と同様に、応募された方が、どのような作品を作りたいのかという計画書を出していただき、審議していくようになっています。

皆さんよく見られるような、ネコとかサルとかトラとか、いろいろなオブジェがあちこちに点在していますが、そのようなものは駄目であると最初から選定委員会において言われておりまして、やはり芸術性の高いものを置きたいということで、応募する方には、応募の際にきちんとそのようなことを申し上げています。

募集する範囲につきましては、現在のところ市原市内に限っております。

なぜかと申しますと、将来的には当然県内、全国でやる予定です。そのための予算の確

立がうまく出来ておらず、それが出来てから県内、県外に公募しようと思っております。

ただ、千葉市のしかるべきところへ行ってお話をし、それから東京芸術大学の方にも行きていろいろ話したところ、非常に喜んで、その時にはぜひ協力をしたいという話をいただいております。

(委員)

質問がもう一つあります。

資料の予算書のところで、オブジェ選定委員会会場費というのがあります。地元の喫茶店借り上げで1回1万円を2回とありますが、これはどうしてもこの会場でないといけないという理由があるのでしょうか。

(桜さんさん会)

今委員の先生方を5人ほど考えているのですが、学校の先生や芸術家の先生もいらっしやいまして、市原の中心部で、駅から近いところ、車で来ることができる場所を探していたところ、ちょうど「パピヨン」という喫茶店が、プロジェクターもあって、選定委員会の間きちゃんと貸していただける場所として適しています。その代わりお茶代も含めての金額になっています。

(委員)

提案書内の事業経費(予算)の一番下の人件費の部分の中で、「④その他の会議分」とありますが、具体的に説明していただいてよろしいですか。

(桜さんさん会)

会議については、今申しましたオブジェの選定委員会、我々のプロジェクト内部の役員会、そしてオブジェ全体のプロジェクト会議とあり、「その他の会議」というのは、特にオブジェを設置するための関係先との打合せがあったり、あるいは募集する際に作家とお会いしたりして、お話しなければいけないということが結構あります。

その際にオブジェ制作をお願いしたりするわけですから、お茶代くらい出さなければいけないということで、いろいろ相談したところ、人件費も交通費相当であったらということで、実質はお茶代ですが、車で来られたり電車で来られたりしますのでその辺りの代金として、今回予算を計上しているところです。

(委員)

ありがとうございました。

(委員)

オブジェの選定委員という話がありましたが、地域住民に参画してもらう、興味を持ってもらうという視点から、選定にあたり、地域の方々に何らかの形で参加してもらう、例えば投票してもらうとかということは考えられるでしょうか。

(桜さんさん会)

質問が分からなかったので、もう一度お願いします。

(委員)

専門の芸術家等で構成される選定委員会を設けられていて、その方々だけで決定されると思うのですが、決定するにあたり、地域住民の方々が、例えば投票するなど、選定に少しでも関わってもらえるようなことは難しいのでしょうか。

(桜さんさん会)

先ほども申しましたが、私どもも全く芸術関係には疎いものですから、行政のほうに、「こういう活動をするにはどういう方が良いか」というお伺いを立てたところ、候補者を何人か出していただいたという経緯がありましたので、委員会の中で、特に支障がなければ2年間という規約を作っています。特に今のところ、住民から意見を聞いて進めようということはありません。

なぜなら、あまり個人的な意見で我田引水であると言われても困るため、客観性がある方を選びたいと思っております。そうしますとやはり専門分野の芸術家とか行政などの意向で進めたらと思っているのですが、どうでしょうか。

(委員)

そういう経緯があるのでしたら仕方ないとも思いますが、地域住民の方がこの場所を散策されたりするわけですから、何らかの形で地域住民の方々が参加できたらいいかと思えます。

もう一点。107名という大変多くの会員がいて、定例作業日が毎月4回と大変多くやっていますが、これだけ多くの会員をどうまとめて活動展開されているのか、組織展開されているのかを伺いたい。

(桜さんさん会)

大坪地区、相川地区、山田地区、二日市場地区、光風台地区に各地区に役員、リーダーを置きまして、例えば、「このエリアはあなたがきれいにする」など役割を決めて、みんな協力してやっています。

(委員)

地区ごと、ブロックごとにやっているということですね。

(桜さんさん会)

ブロックごとにやっています。ただ、全部のエリアをやっているメンバーもいますし、弱いところをみんなが助け合ってやっています。

(会長)

それでは時間が参りましたので、質疑を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、続きまして「もぐらの冒険」様、準備をお願いします。

－「もぐらの冒険」のプレゼンテーション－

(会長)

ありがとうございました。それでは質問をさせていただきたいと思います。

(委員)

いくつか質問させてください。

「子ども」というのは非常に対象が広いと思います。0歳児からどれくらいの範囲まで、いろいろな世代の子どもたちと交わるというのは必要であろうと思うのですが、大体どのくらいの年齢を対象にしているのかというのが一つ。

二つ目は、今後の遊び場所の確保について、まだ決めかねているのか、あるいは、確保できる目は既に立っているのかというところお聞きしたい。

また、名簿を見ますと、御家族の方が中心にやっているように思えるのですが、スタッフは十分足りているのだろうかという点。

それから、先ほど講師をしてくれる専門家の話が出ましたが、講師をゲストで呼ぶのではなく、逆に日常的に関わってくれるような、専門知識を持った方がいらっしゃるのかどうか。

最後に、この事業はボランティアとしてやっていくのか、あるいは、今の時代、子育てに非常に関心が高まっているので、一つの事業として展開できる可能性を感じているのか、そういう計画を持っているのか、というところをお聞きしたいです。

(もぐらの冒険)

まず、対象年齢ですが、私たちにも 0 歳の子どもがいますが、やはり 0 歳の子どもを抱える私の妻は、どこにも出かけない限り知り合いが出来ませんでした。

自分からかなり積極的に出て行って知り合いが出来ようになったのですが、そうでもしない限りなかなか知り合うことがないのではないかなと思ったり、一歩出て行こうという思いがなかなか生まれにくいなと感じたりしましたので、対象年齢としましては、乳幼児から考えていますし、中心は乳幼児から幼児、小学生あたり、保護者も一緒についてくるような年齢を想定しています。

ただ、実際開いている遊び場では、もう少し大きな小学校高学年から中学生くらいでも、近所に住んでいる子は来ていることもあるのですが、中心となるのは乳幼児から小学校低学年、中学年あたりです。

また、場所の確保についてですが、先ほど探している途中とお伝えしましたが、一つは「福増ベース」という場所を考えているのですが、それ以外にも、プログラムは遊びを中心に考えていますので、出来ればどんな場所でも出来るということを証明していきたいと思っています。極端なことを言いますと、道路などでも出来ることを考えたり、今後想定はしていますが、明確な場所探しはこれから進めていきます。

次に、スタッフについてですが、本当に家族でやっているものに、友人が手伝ってくれているくらいのものですが、ここには今まで出会った保護者や地域の方も加えていきたいと思っています。まだ、そのような段階ではないのですが、今後は仲間を増やして活動していきたいと思っています。実際に、準備等もあるので、スタッフがいた方がいいのは間違いないです。

また、日常的に関わってもらえる講師という点については、私たちも気づかされる御指摘でした。今挙げた講師陣はあまり近くに住んでいません。私たちが、東京に住んでいた時に知り合ったり、活動を通じて出会ったりした人たちでして、近所ではないので、呼ぶのはなかなか難しいですが、これから市内の市民活動の中でも出会いがあるとは思いますが、なるべく大勢の、いわゆる専門家の人も一緒に、手を取りながらやれたらと考えていますし、検討したいです。

それから、事業化の予定についてですが、現在私も就労しているのでその合間に活動していますが、夢としては事業化したいと思っています。団体の法人化なども検討しているところですが、その基盤整備のためにも本補助金が一つのきっかけになるかと思っています。

以上です。

(委員)

ありがとうございました。

(委員)

一点だけお伺します。「子どもの預けあい保育プログラム」は2月に開催ということですが、具体的な計画を教えてください。

(もぐらの冒険)

まだ計画段階ではあるのですが、先ほどのプレゼンテーションの中で、お節介をし合わないと申しましたが、積極的にお節介をし合おうではないかというものが、この事業の中心になるものと思っています。

今の段階では、「福増ベース」であったり、自分たちの私有地であったり、一つの場所を借りて、前半組と後半組に分かれ、最初は前半組の親たちが出かけたときに、その子どもたちを後半組の親たちが預かって一緒に遊び、そして、前半組の親たちが帰ってきたら今度は後半組の親たちが出かけてその子どもたちと遊ぶ、というような計画をしています。

そうすることで、自分の子どもは自分だけが関わっているのではない、自分の子どもにこれだけお節介を焼いてくれる大人がいる、これだけ楽しくて楽な気持ちになるんだなということがわかるような、時間になるのではないかなと願っております。

(委員)

これは継続して行うということですね。

(もぐらの冒険)

はい。これを行うにあたっては大人同士の信頼関係が必要になってくると思いますので、長い時間をかけたプログラムになってくるのではないかと考えております。

(委員)

わかりました。ありがとうございました。

(委員)

講演会についてですが、予算案にある講師謝礼3名というのは可能なのか。その辺りの詳細を教えてください。

(もぐらの冒険)

講師謝礼が、予算では1人3万円ずつ計上して、そのほか、会場が you ホールの会議室を予定してまして、3部屋つないで60名くらい入る部屋を2時間借りると1万440円、映像機材等を借りると1千450円で、大体1万2千円くらいを会場費、また、講師を招聘するための交通費を計上しています。

3名とも市民活動に関しては講師自身実践している方なので、謝礼金はそれほど高くないですが、可能ではないかと思えます。

(委員)

ありがとうございます。

(会長)

それでは以上にしたいと思います。どうもお疲れ様でした。

次は「特定非営利活動法人川島会」様、お願いします。

－「特定非営利活動法人川島会」のプレゼンテーション－

(会長)

ありがとうございました。それではこれから質疑に入りたいと思います。

(委員)

ホームページについて伺いたいと思います。ホームページは外注ですよね。外注した後のメンテナンスは「川島会」さんの方でやっていくのでしょうか。

(特定非営利活動法人川島会)

今回制作を依頼するのは外注ですが、仕組みはワードプレスという誰でも使えるようなものを考えております。私自身もワードプレスはずっと使っておりまして、更新は容易にできますので大丈夫です。

(委員)

もう一点は、ホームページにいろいろな商品載せると思いますが、そういったものを一回載せると、自分たちで操作しようと思っても出来にくくなると思うのですが、そういうときの技術面や組織面のサポートなど、どのように考えてホームページに載せようとしているのか。

(特定非営利活動法人川島会)

ホームページに掲載するものですが、一度に大きく展開するのはなかなか難しいので、まずは、やはり炭やチップなど現状あるものを載せて、段階を踏んで商品数を増やしていきたいと考えております。その後、竹細工などいろいろあると思いますが、そういったも

のを増やしていく考えではあります。

対応の方向ですが、注文してから送るまでの流れをしっかりとサイト内で説明するような流れにして、自分たちに無理のない状況を作り、購入する方には理解していただいた上で買っていただくようにしたいと思います。

(委員)

もう一つは、「川島会」のメンバーと地域の人をどうつなげていくか、提案書を読んだときに分からなかったので教えてください。

(特定非営利活動法人川島会)

地域の人というのは、里山団体などではなく一般の市民ということですか。

(委員)

市民を対象としたときに、どのようなアプローチを取るのか。

(特定非営利活動法人川島会)

市民へのアプローチについてですが、我々は福増という地区で活動しており、福増の住民にはアプローチは取れています。その他の地域に関しては、現状として広報紙「川里新聞」の配布などにより対応はしていますが、不十分な状況にありましてなかなか配布状況が良いわけではありません。

ただ、農林業振興課へこのような補助事業に申請したいという話をし、「川里新聞」を各地域の人が見られるような場所を提供又は紹介してほしいという話は打診していき、既に了解をいただいています。

(委員)

ありがとうございました。

(会長)

私の方からも一点。市の他の部署からも他の補助金をこれまでもらってきていて、特に竹や里山活動について、いろいろな取組を蓄積されています。

申請書の内容を拝見すると、一番の中心コンセプトは、竹や里山活動の取組の延長の中で、ホームページを改めて本格的に立ち上げて、コミュニティビジネスを展開していくというイメージをしたのですが、事業フレームとしてそれでよろしいでしょうか。

(特定非営利活動法人川島会)

コミュニティビジネスと言いますか、ショッピングサイトですので、完全に EC（電子商取引）サイトで、コミュニティサイトとはまた別です。コミュニティ系サイトですと、SNS などそういったものになってくるのかと思うのですが、基本的には販売専門のサイトにつなげていけたらと思っております。

（会長）

要するに営利サイトとしての視点、手法を使っていることはいいと思うのですが、今後収益を上げていくとして、その収益を地域活動に還元していくというものをコミュニティビジネスというわけですが、そういうイメージでよいのか、ということです。

（特定非営利活動法人川島会）

そうですね。7, 8 年前に補助金をいただいた経緯がありまして、その時の交流会の中で話させてもらったときに、ボランティア団体の現状、高齢化や人材が集まらないという人材の問題、財源の問題が課題になっていました。我々の団体がというよりも、交流している団体さんで財源に困っている方、いい製品をアピールしたいという方たちのために、一緒にこのサイトに参加していただいて、参加した各団体が永続できるような財源としてお配りする元になればとは考えています。

（会長）

まずは、そこを一つ確認したかった点です。要するに、活動の持続性ということを考えていけば、その元手は当然必要になります。ただ、それを自前で収益金という形で上げていながら継続性を広げていくという意味であれば、非常にいい一つの視点であると思います。

そのことを踏まえた上で、事業モデル、形としてポータルサイトを開きながら、堆肥、炭、竹細工の販売、さらにはメールオーダーなどにも広げていくというお話でしたが、これも、非常に小さい規模から大きな規模まで当然いろいろ考えられます。

先ほどのプレゼンテーションのお話の中でも、事業者等を含めて大口の相手を対象とした販売もありうるということでしたが、この辺りの事業展開として、当然農業関係者、いろいろな事業をされている方を含めて、ただポータルサイトを作ればいろんな人が集まるというものではないと思いますが、どういうアプローチをして、どういう段階を経ながら事業の拡大を目指しているのか、お聞かせください。

（特定非営利活動法人川島会）

まず、里山再生、里山をきれいにしていく際の副産物を活かしていこうということ。

それから、4月に市原市の産業支援センターが開設されまして、同支援センターのコーディネーターさんと相談させていただいていますが、同じ炭でも農家対象だけではなく、成

分が炭素なので、鉛筆の開発をして小学校に無料配布をしていくですとか、住宅の方であれば抗菌作用もあるので炭をネットで囲って住宅の資材として使ってもらおうですとか、そのような意味合いでも、一気に広げていくのではなく、いろいろな形で副産物を製品化していきながら利用していただき、里山を、手を入れてない状況から、綺麗にしていきながらまたその副産物を利用していきような、リサイクルということを考えています。

(会長)

今、目指されている方向性というのは非常に理解できる場所ですが、次に問われてくるのは、マーケティングの問題として、どのくらい市場にニーズがあるのかということが一つと、それを今どのくらい調査し、手ごたえを感じているのか。

現段階ではどういう状況なのか、その状況を踏まえながら今後どのくらいの収益規模を目指そうとしているのか、端的にお答えください。

(特定非営利活動法人川島会)

里山関連のキーワードで検索した場合ですが、世の中のトレンドとして、月間の検索ボリュームは 1,000~2,000 件くらいです。年間で考えれば 10,000~15,000 件くらいであると考えております。また、それをどのように誘導してくるかということが問題になると思うのですが、昔のサイトの制作と違いまして、ただ作ればよいというものではないことは重々承知しております。

やはり、きちんとした商品を上げて、かつ更新頻度を上げることによってサイトが上位にランクインしていくということが、今のトレンドになっておりますので、ただ載せて終わるだけでなく、その中にブログの機能を搭載し、里山関連のワードや情報を載せることにより、派生ワードに引っかかってくる方たちも誘導できたらと考えております。

また、売り上げ規模に関しては、最初は年間 20~30 万円くらいいけたらと考えています。根拠としましては、たけのこの販売もしているのですが、需要が非常に大きく、たけのこの販売を取っ掛かりとしまして、受け付けたり、支援したりできたらと考えております。炭や竹チップに関しては、今、私が趣味で農業を始めておりますので、このつてを使って農業者などのつながりにアプローチをかけていき、サイトで注文していただけるようにしていこうと思っています。

(会長)

それでは、時間になりましたので以上にさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

それでは、「オリーブコミュニケーション」様、よろしく願いいたします。

－「オリーブコミュニケーション」のプレゼンテーション－

(会長)

それでは、質疑に入らせていただきます。

(委員)

非常に将来性を感じると言いますか、今後の地域の事業のあり方を考えたときに、このような取組が必要になってくるであろうという感覚はあります。

今、コミュニティビジネスと呼ばれているものは、地域資源を使って地域の課題を解決していくことですので、複数の事業を組み合わせることによって、いろんな解決の仕方をみんなで考えていけるのだと思います。

おそらく、これからのコミュニティビジネスの中心は、やはり働き方の問題であると思うんですね。収益がなければ継続性がないので、例えば女性の場合であったら、1日2時間くらいでも働きたい、5時間は働けるといった人たち、それから特に高齢者、女性の働く場をどのように作っていくか、どのように柔軟性を持たせた働き方でそのような人たちを取り込んでいけるかが、今後コミュニティビジネスのキーワードになってくると思います。コミュニティ社会においては、特に女性の方が、はるかに発信力が高いため、女性をいかに大切にするかが課題ではないかと思います。

それから、収益をどのように配分していくか、専門家の協力、そしてこの地域の総合したブランド力、そういったものを一つの事業モデルとして、どのように考えているのか。提案書の説明の中ではあまり具体的なものが見えないので、その辺りを御説明いただきたい。

(オリーブコミュニケーション)

今、現在は具現化しておりませんが、ステップアップすべきであると考えています。四国では「葉っぱビジネス」などの例もありますが、この場所に小屋を建てまして、小さな苗木を周辺のお年寄りや婦人に作ってもらって鉢植えにしたら、面白い農業ビジネスになるのかなと思っています。ただの食料やエネルギーの確保ではなく、インテリアとして変わったグリーンの産業をグリーンの産地から提供していきたいと考えています。

(委員)

四国の「葉っぱビジネス」も柔軟な働き方を展開していますが、オリーブを使って何か柔軟な働き方の提案はありますか。

(オリーブコミュニケーション)

今、オリーブの挿し木が地域によってあります。挿し木の発根率は非常に低いのですが、根気よく鉢に挿し木をし、盆栽として販売していくのも一方向ではないかと思っております。

(委員)

それは、マーケット的にどうなのでしょう。

(オリーブコミュニケーション)

マーケットの把握としては甘いですが、オリーブは平和のシンボルとして、古代のオリンピックにも使われておりますし、すごく魅力を感じるんですよね。東京マラソンで小池百合子さんが初めてオリーブの冠をしたですとか、今回のオリンピックにおいてもそういったものを使うなど、いろいろな議論をしていますが、混迷している世界において、小さな灯し火ではありますが、人類の平和のシンボルとして、みんな仲良くやろうよというようにできたらと思っております。

(委員)

その辺りの販路開拓ということも課題になってきますよね。オリーブということを考えますと、病院に販路開拓をするですとか、いろいろな道を今後探っていかれると思います。もう少し事業全体の具体性が出てくると、もっと周りを巻き込めるのではないかと思います。

(委員)

質問をよろしいでしょうか。

マップの印刷が、A3サイズが2千部、A1サイズが20部ですかね、そのA3サイズというは、配付資料の地図の部分でしょうか。

(オリーブコミュニケーション)

そうです。

(委員)

A3サイズのマップですと、持った場合に、少し持ちにくいかなと思いました。

それから、イベントが結構ございまして、講師謝礼が出ていますが、具体的にどのような内容なのか。また、将来オリーブが実をつけたときに、これを商品化するのかということと、会員数が少ないですが、今後どのように考えていらっしゃるかということをお聞きさせていただきたいと思っております。

(オリーブコミュニケーション)

イベントについては、現在もいろいろなイベントがありますが、もう少しグレードアップしようと思っていまして、例えば、身体を動かすことも一つのイベントになると思うんです。

(委員)

それは、どなたか講師を頼むということですか。

(オリーブコミュニケーション)

アーティストに来ていただいて、オリーブの実を採取するですとか、あるいは雑草採りなど、そういうことはこれまでもやっております、身体を動かすことは面白いということで、結構参加していただいています。

(委員)

専門的なことを講師に頼むというわけではないのですね。

(オリーブコミュニケーション)

それも当然あります。講師を呼ぶこともありますし、皆さんがこの場所で楽しんでいけるものはなんだろうかと考えています。

(委員)

まだその辺りは決まっていないということですね。

(オリーブコミュニケーション)

そうです。オリーブでもいろいろなワークショップが出来ますが、それもイベントの一つと考えております。

(委員)

会員は今後どのように募集するのですか。人数的に少ないですよ。千葉大の学生さんを取り込んだにしても、それが毎度毎度ということではないですし、私が見ている限りでは会員はたくさんいた方がいろいろな意見が出ますので、名簿だけ見ますと結構高齢の方が多いため、その辺りが課題になるのではないかと思います。

(オリーブコミュニケーション)

そうですね。もちろん SNS で発信したり、若い人たちにバトンタッチする土壌作りも考

たりする必要がありますので、皆様の御意見を頂戴して今後進めていきたいと思ひます。

(委員)

中野地区の発展のためにも、モデルである南市原応援団ともコミュニケーションを取っていただけると思ひます。

(オリーブコミュニオン)

参考にさせていただきます。

(委員)

頑張ってください。

(会長)

時間になりましたので質疑は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

では、プレゼンテーションは以上になりますので、進行は司会へお返しいたします。

(司会)

はい。ありがとうございました。

以上を持ちまして本日の議事は終了いたします。今後のスケジュールを御説明させていただきます。平成 29 年 5 月 25 日木曜日に開催予定の平成 29 年度第 2 回市原市市民活動・協働推進委員会において、今回の提案事業について最終審議を行い、支援を行う事業について、市へ答申をいただく予定です。会議については非公開と決定しておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、長時間に渡り、大変お疲れ様でした。以上を持ちまして、平成 29 年度第 1 回市原市市民活動・協働推進委員会を終了といたします。

ありがとうございました。

以上